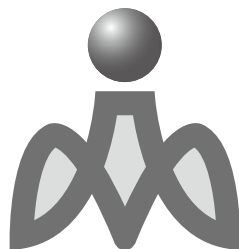


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔 平成24年10月～12月実績 〕
〔 平成25年 1 月～ 3 月予測 〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目でみる業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目でみる業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目でみる業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目でみる業況	12

【Ⅰ】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

- (1) 対 象 地 区 11 商工会
 (2) 対 象 企 業 数 165 企業
 (3) 回 答 企 業 数 165 企業

2. 調査対象期間

第3四半期 平成24年10月～12月期
 調査時点 平成24年11月15日

3. 調 査 方 法

県下の調査対象企業を11商工会の経営指導員が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービス業	計
都 留 市	3	2	4	6	15
韮 崎 市	3	3	4	5	15
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	3	3	4	5	15
甲 州 市	3	3	4	5	15
中 央 市	4	2	6	3	15
身 延 町	4	2	5	4	15
富 士 川 町	3	2	4	6	15
河 口 湖	4	2	6	3	15
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

①本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

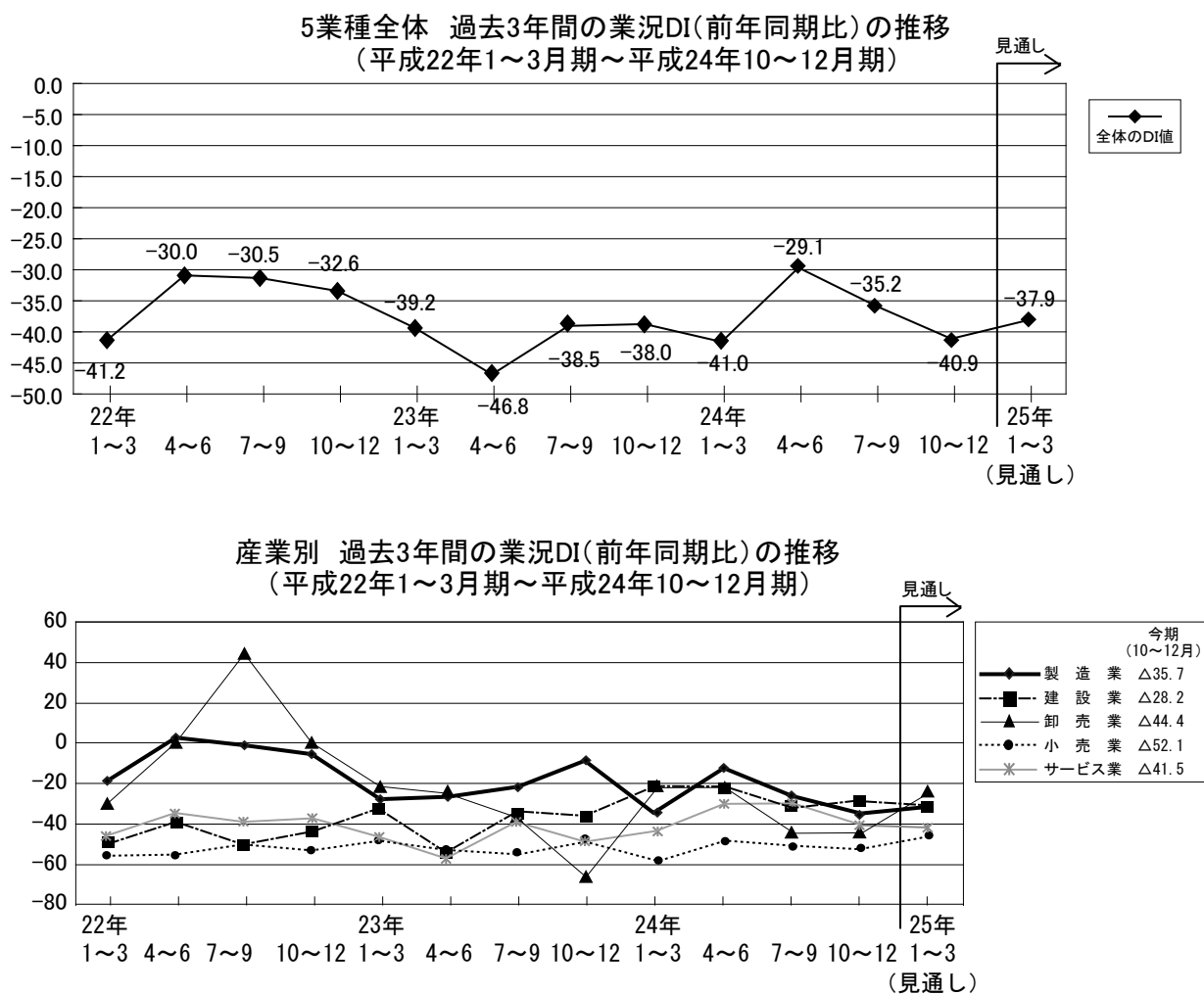
②次頁【Ⅱ】1. 産業全体の業況概観・・・については、本県商工会地区の企業ばかりでなく本県全体の被調査企業（卸売業を含む）285サンプルによるものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県5業種の業況概観について、調査対象285企業のデータに基づいて産業別の業況DIを示す。まず下記の上図は、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断DIを表したものである。業況DIは前期マイナス35.2であったが、今期はマイナス40.9と5ポイント以上の悪化で、2期続けて前期を下回ってしまった。来期の見通しは、いくらか明るくなりマイナス37.9である。

下図は今期の景況感をやはり前年同期と比較して、過去3年間の推移を本県製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業5業種別に示したものである。製造業は、前期マイナス26.7であったが、9ポイントの悪化でマイナス35.7である。建設業は、前期マイナス32.5から少々回復しマイナス28.2であった。卸売業は、前期に大きな落ち込みを見せマイナス44.4だったが、引き続き横ばい状況のDIで厳しい状況である。小売業は、さらに前期マイナス50.7という厳しさであったが、今期も同様な状況でマイナス52.1である。最後にサービス業であるが、前期マイナス29.3から今期はマイナス41.5と10ポイント以上悪化した。前期と比べ、業況DIが改善したのが建設業、横ばいが卸売業、製造業、小売業、サービス業3業種は悪化した。



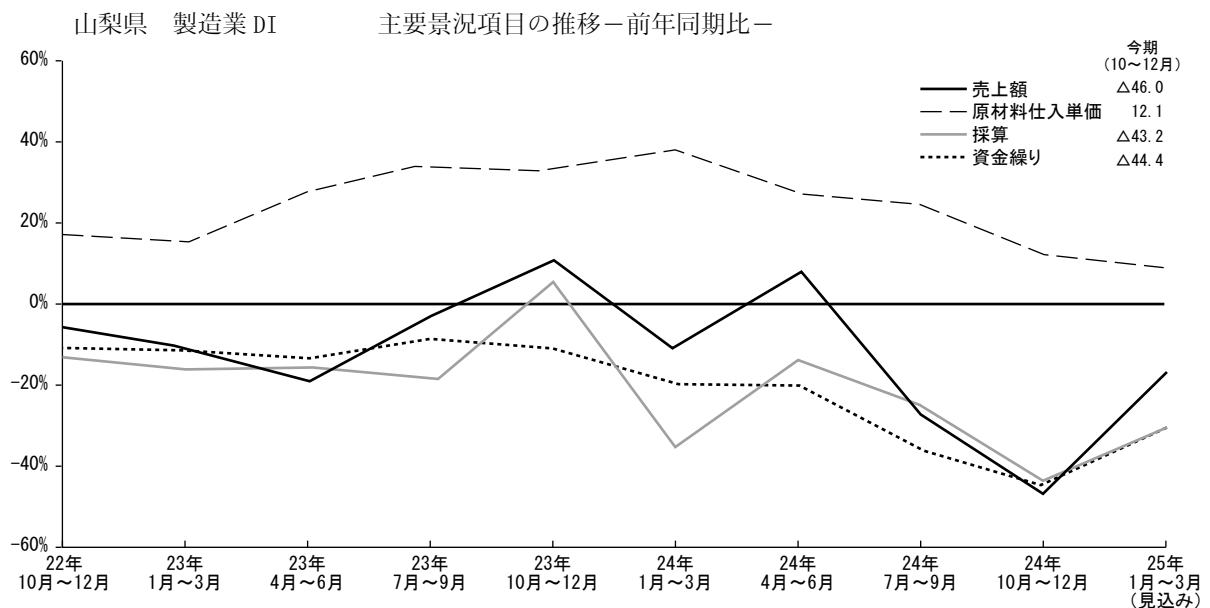
【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域からの120企業を含めた285サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

2. 製造業の動向

1. 景況概観

下図は、製造業の過去2年間の「売上額」「原材料仕入単価」「採算」「資金繰り」の推移状況を表わしたものである。売上額D Iについては、前期マイナス27.1から今期は「低下」と回答した企業数が約6割に達したことでマイナス46.0となった。20ポイント近くが悪化である。円高や世界的な経済の低迷等マクロ経済環境は厳しいものがある。来期の見通しについては、マイナス16.2と回復の期待感が大きいようだ。

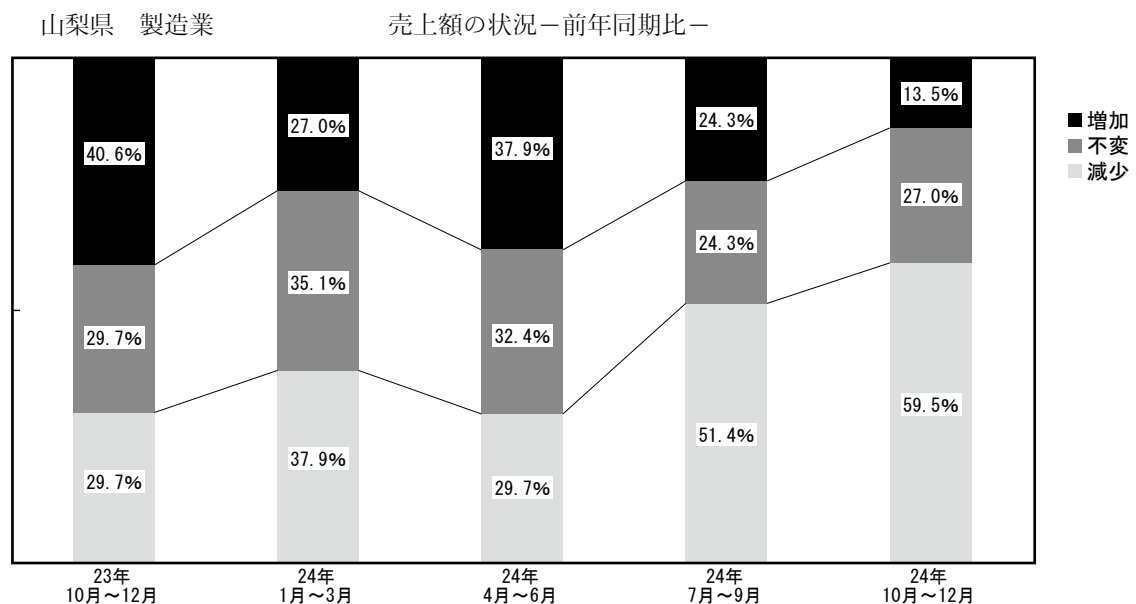
原料仕入単価D Iは前期25.0から、さらに低下して12.1であった。3期続けての低下傾向である。来期の見通しについても低下傾向が続く。採算D Iは前期マイナス24.3であったが、18.9ポイント悪化のマイナス43.2と厳しい。来期の見通しについては、回復期待のマイナス29.7である。資金繰りD Iについても、前期マイナス36.1からマイナス44.4と悪化した。来期の見通しは、こちらも改善期待のマイナス30.5となった。



2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

下図は、過去1年間の「売上額」の前年同期比で見た増減状況の推移を示したものである。ここでは、前記した当期の売上額D I マイナス46.0となった回答の中身を見てみよう。「増加」と答えた企業の割合は前期9社から5社に減り13.5%であった。「不変」は、前期「増加」と同様9社であったが1社増えて27.0%、「減少」は前期19社から3社増の59.5%であった。よって、前期より悪化したことが分かる。

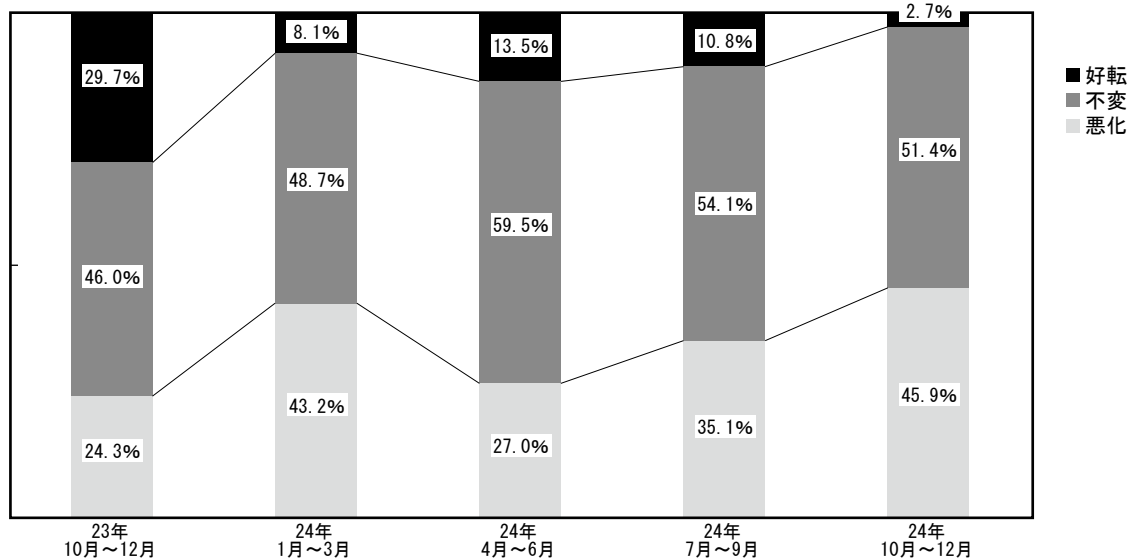


(2) 採 算

本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。今期の採算D I マイナス 43.2 についても、その詳細を見てみよう。「好転」が前期 4 社の 10.8% から 1 社のみとなり 2.7% に、「不変」は前期 20 社から 1 社減の 19 社になり 51.4%、「悪化」は前期 13 社であったが、17 社に増えて 45.9% となった。「好転」が 1 社のみということから厳しさが窺い知れる。

山梨県 製造業

採算の状況－前年同期比－

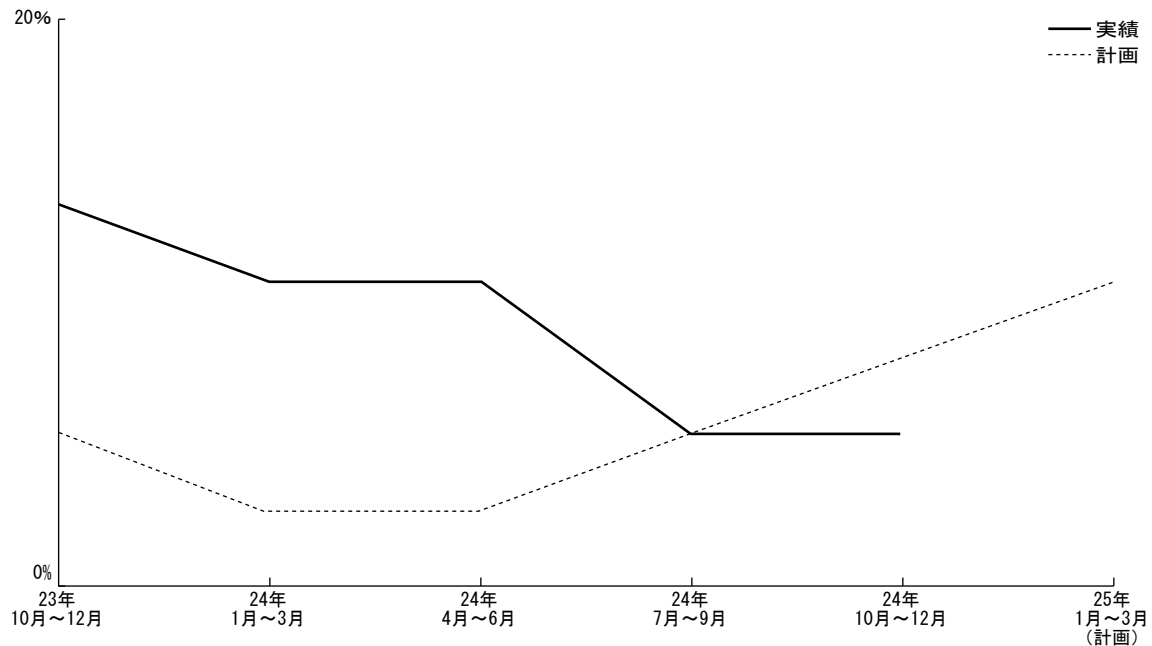


(3) 設備投資

下図は、過去 1 年間余りの「設備投資」の状況を示したものである。今期において、設備投資を行った企業は 2 社であり前期と変わらなかった。その設備投資内容は、「土地」「付帯施設」「その他」がそれぞれ 1 件であった。そして「OA機器」が 2 件であった。今期の実績は、前期の調査における来期の計画より 1 社少なかった。今期における来期の計画については 4 社で、「生産設備」が 4 件、「OA機器」が 3 件である。

山梨県 製造業

設備投資の状況

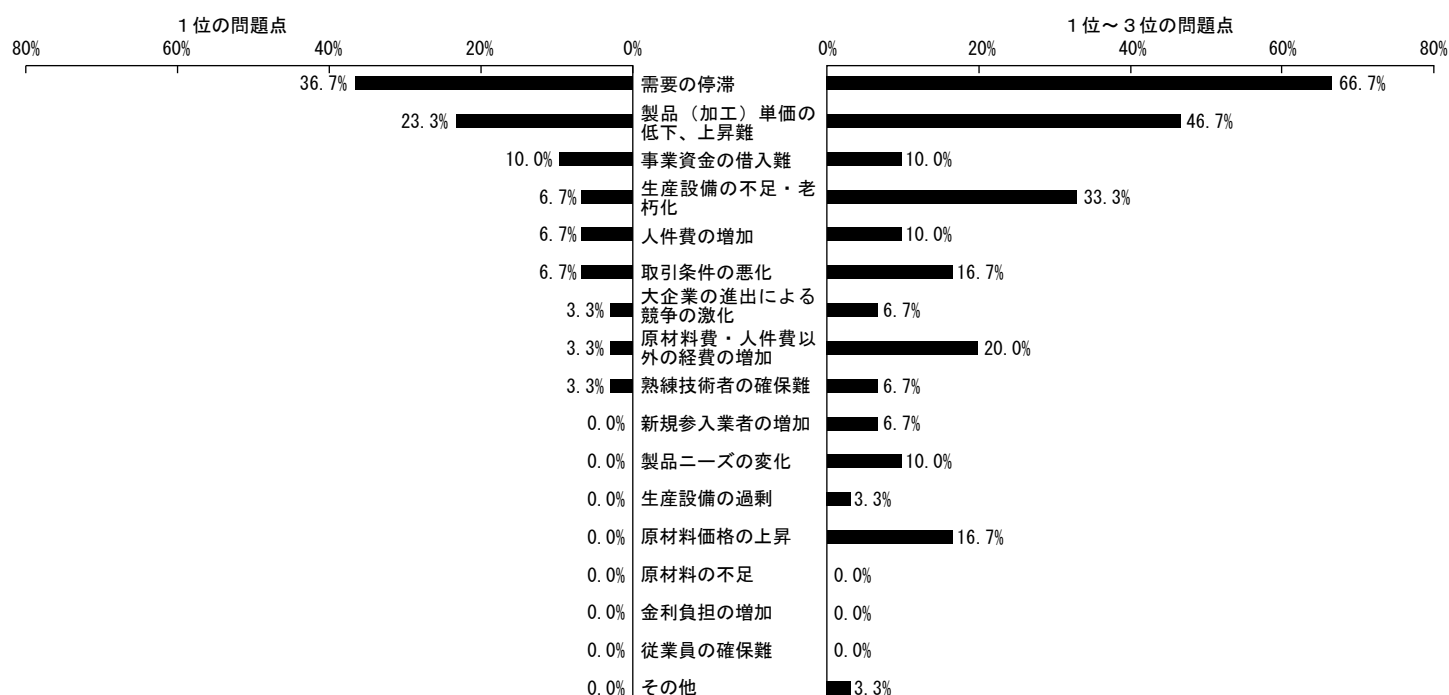


(4) 経営上の問題点

製造業における「経営上の問題点」は、下図のとおりである。まず、前期最も多かった「製品（加工）単価の低下、上昇難」は、今期も7社が挙げ23.3%であったが2番目に落ちた。前期トップを分け合った「需要の停滞」が、前期より4社増の36.7%で一番多かった。3番目には、「事業資金の借入難」を3社が挙げ回答者の1割が答えた。その他は2社が答えるに止まり、「生産設備の不足・老朽化」「人件費の増加」「取引条件の悪化」が挙げた。

次に「一～三位」を見ると最も多い答えは、相変わらず「需要の停滞」で前期に半数の回答の50.0%であったが、今期は20社になり3分の2の企業が問題としている。2番目は、「製品（加工）単価の低下、上昇難」で、3期続けて14社が挙げ46.7%であった。続いて前期と同様に「生産設備の不足・老朽化」で、前期7社から10社になり33.3%であった。そのほか目につくのは、「原材料費・人件費以外の経費の増加」6社20.0%、「原材料価格の上昇」と「取引条件の悪化」が各5社の16.7%となっている。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	8	21.6
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	5	13.5
窯業・土石製品製造業	2	5.4
金属製品製造業	1	2.7
一般機械器具製造業	7	18.9
電気機械器具製造業	2	5.4
輸送用機械器具製造業	3	8.1
その他製造業	5	13.5
合 計	37	100.0

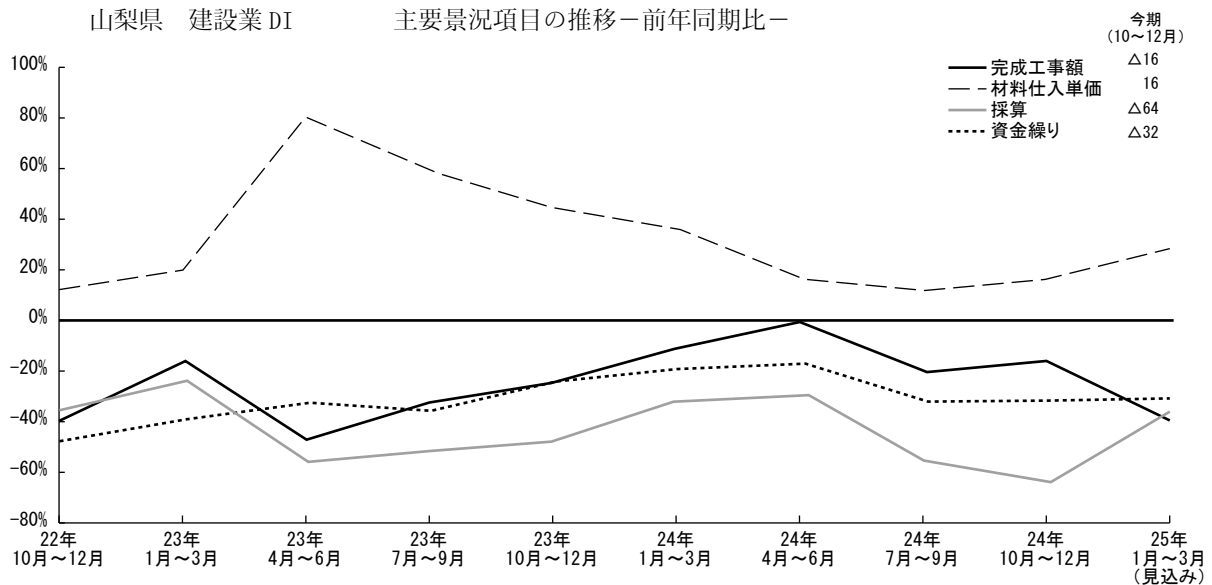
従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常 雇	い	企業数	構成比(%)
2人以下	18	48.6	13	35.1
3人～5人以下	9	24.3	10	27.0
6人～10人以下	4	10.8	6	16.2
11人～20人以下	3	8.1	2	5.4
21人～50人以下	3	8.1	6	16.2
合 計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

1. 景況概観

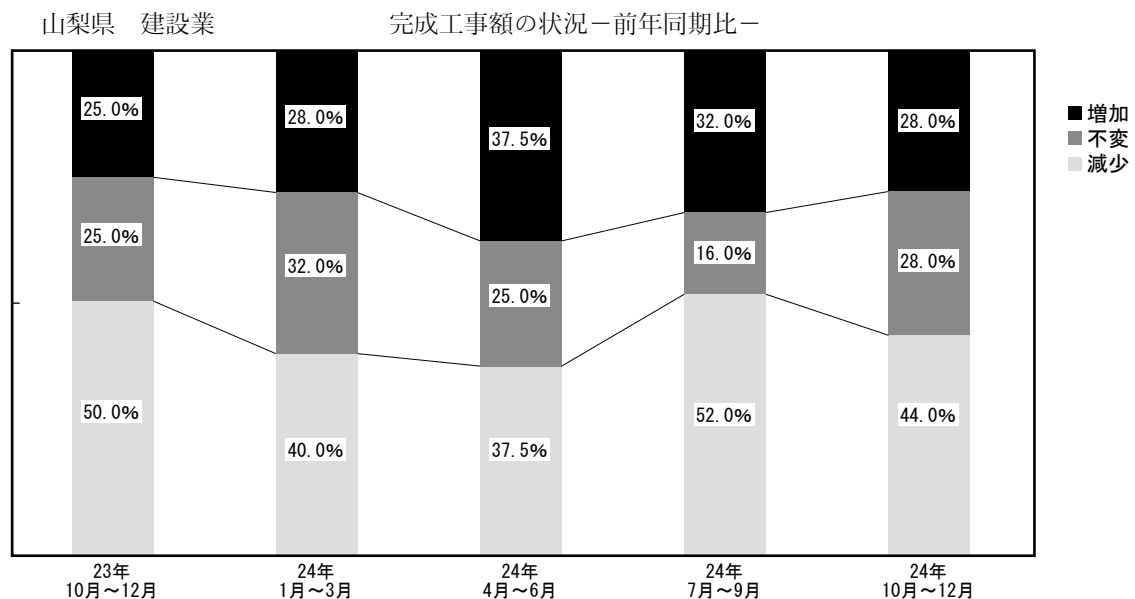
完成工事額D I は、前期マイナス 20.0 であったが、今期やや改善のマイナス 16.0 であった。来期の見通しについては、かなりの悪化予測のマイナス 40.0 である。材料仕入単価D I は、前期 12.0 から前々期の水準に戻り 16.0 であった。来期の見通しは、今期より 12 ポイント上昇し 28.0 と値上がり傾向を示す。採算D I は、前期マイナス 56.0 から一段と悪化してマイナス 64.0 である。完成工事高D I がいくらか改善したのだが、材料の値上がり等が影響したものと考えられる。来期の見通しについては、大きく改善しマイナス 36.0 である。資金繰りD I については、前期マイナス 32.0 と変化がなかった。来期の見通しも同じD I である。



2. 主な項目で見る業況

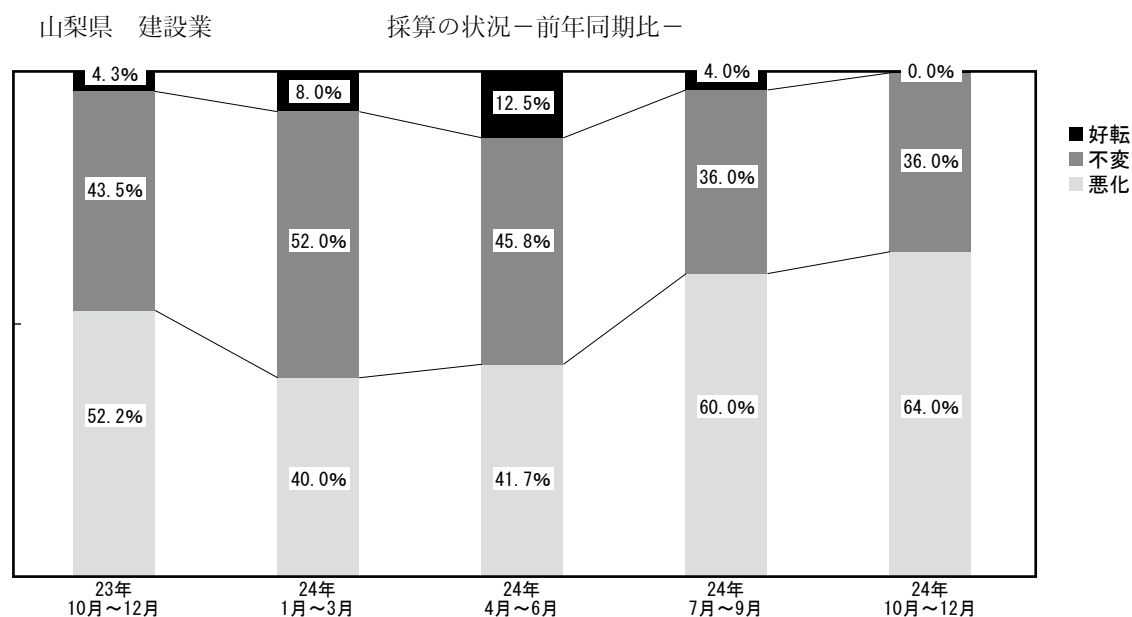
(1) 完成工事額

過去 1 年余の「完成工事額」の状況の推移を表わしたものが下図である。今期完成工事額D I のマイナス 16.0 の内訳をみると、「増加」が前期 8 社の 32.0% から 1 社減り 28.0% となった。「不変」は前期 4 社の 16.0% から 3 社増えて同じく 7 社の 28.0% になった。よって、「減少」は前期 13 社の 52.0% から 2 社減の 11 社で 44.0% であった。ちなみに、今期の受注（新規契約工事）額についてみると、前期D I マイナス 28.0 からマイナス 20.9 と改善した。来期の見通しについては、さらに改善を示しマイナス 16.7 である。



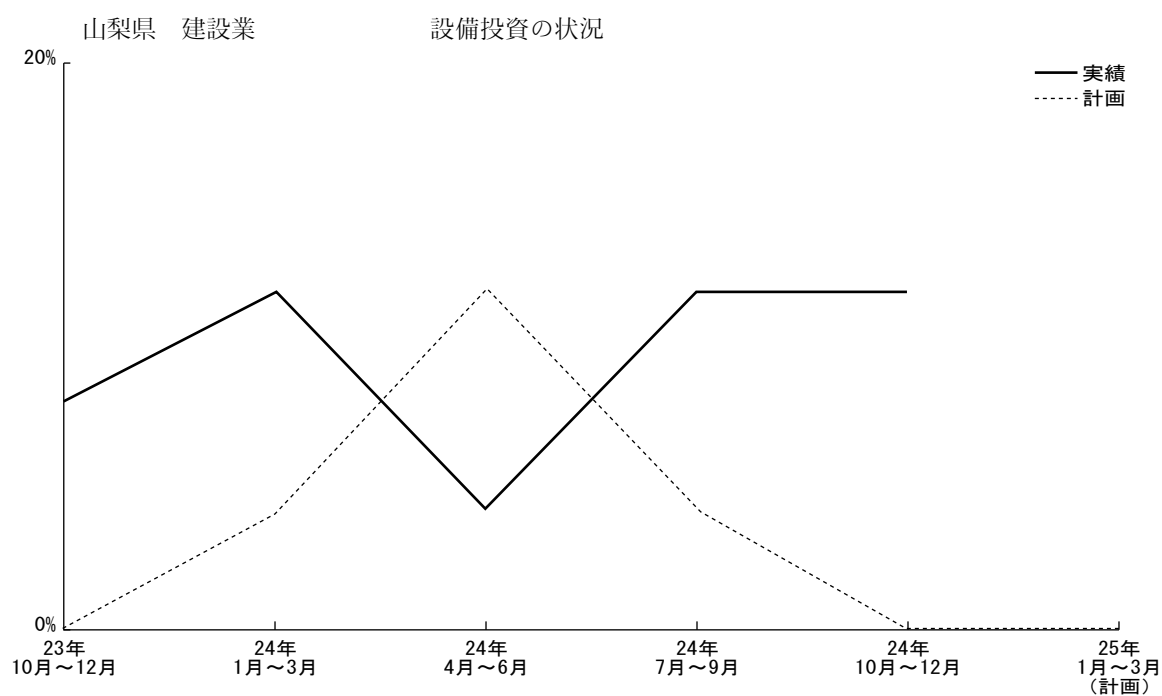
(2) 採 算

「採算」状況の詳細を見ると下図のようになる。今期採算D I マイナス 64.0 の内訳は、「好転」が前期 1 社のみの 4.0% からゼロになってしまった。「不変」は前期と変わらない 9 社の 36.0% に、「悪化」は前期 15 社の 60.0% から 1 社増えて 64.0% となった。



(3) 設備投資

設備投資を実施した企業は、前期と同じ 3 社であった。前期における今期の計画見通しはゼロであったが、そうならなかった。しかし、今期における来期の見通しは前期同様ゼロである。今期 3 社の投資内容は「車両運搬具」が 1 件、「OA 機器」が 2 件である。

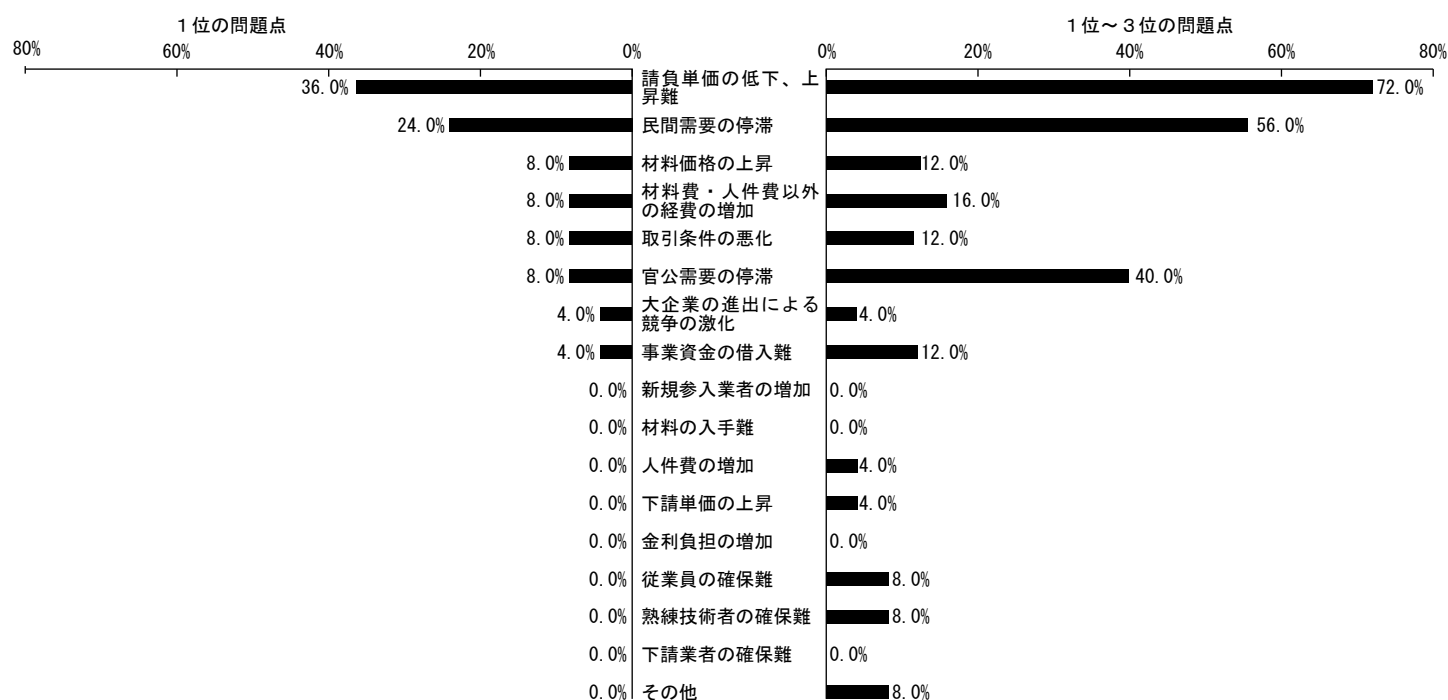


(4) 経営上の問題点

まず、「一位」に挙げたものから見ていくと、最も多い答えは前期「民間需要の停滞」から「請負単価の低下、上昇難」に変わり、4社から9社に増加して36.0%であった。2番目は、「民間需要の停滞」で前期10社の41.7%から4社減り24.0%であった。続いて、その他問題点として挙げた項目は2社止まりで、「材料価格の上昇」「材料費・人件費以外の経費の増加」「取引条件の悪化」「官公需要の停滞」である。

次に「一位～三位」をみると「一位」の回答と同様に、「請負単価の低下、上昇難」を18社が挙げ、前期より1社増えて72.0%のトップである。続いて、こちらも「民間需要の停滞」で前期14社と変わらない56.0%であった。3番目に「官公需要の停滞」を10社が挙げ、40.0%であった。あとは「材料費・人件費以外の経費の増加」が4社、「材料価格の上昇」「取引条件の悪化」「事業資金の借入難」が3社ということであった。建設業にあっては、受注しても収益環境が厳しいことが窺い知れる。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
総合工事業	17	68.0
職別工事業	5	20.0
設備工事業	3	12.0
合 計	25	100.0

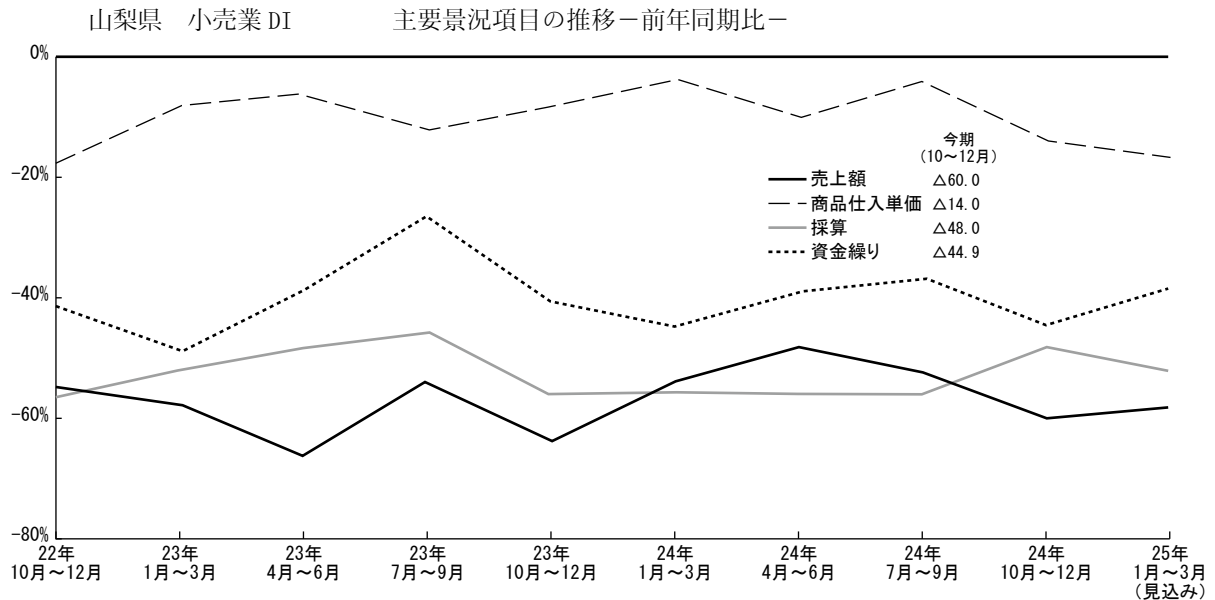
従業員規模別

従業員数 \ 雇用形態	常 雇 い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	8	32.0	6	24.0
3人～5人以下	7	28.0	8	32.0
6人～10人以下	3	12.0	4	16.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
21人～50人以下	2	8.0	2	8.0
合 計	25	100.0	25	100.0

4. 小 売 業 の 動 向

1. 景 況 概 観

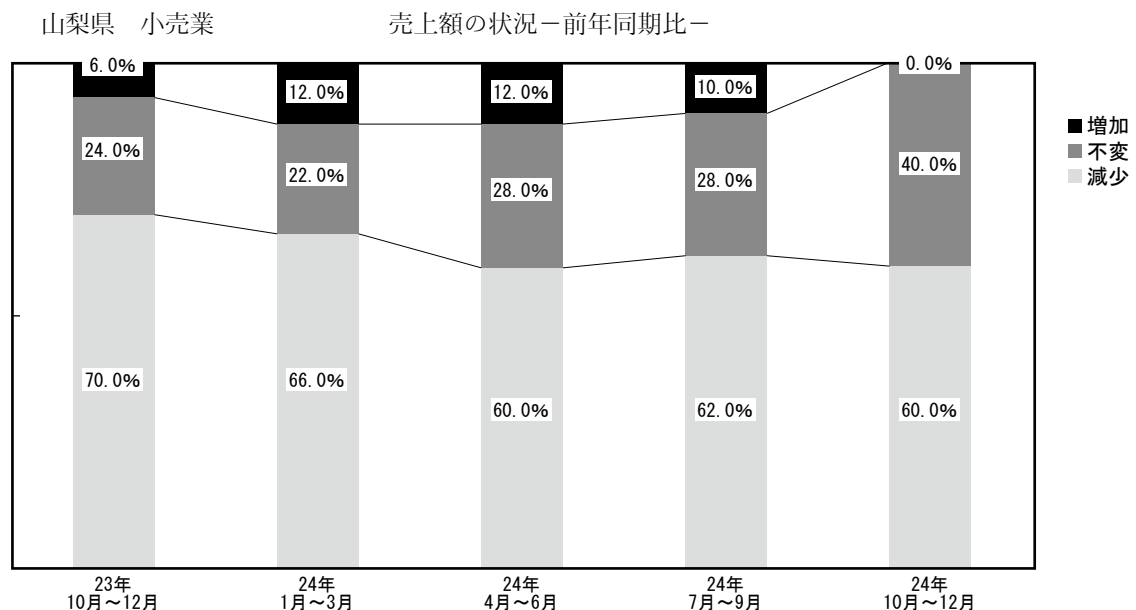
売上額D I は前期マイナス 52.0 であったが、今期にはさらに 8 ポイント悪化してマイナス 60.0 であった。来期の見通しは、ほぼ横ばいのマイナス 58.0 である。商品仕入単価D I は、前期マイナス 4.0 から 10 ポイント低下のマイナス 14.0 となった。来期の見通しは、今期とほとんど変わらないマイナス 16.0 である。採算D I は、4 期続けてのマイナス 56.0 であったが、今期は 8 ポイント改善しマイナス 48.0 であった。来期の見通しについては、再び悪化のマイナス 52.0 である。資金繰りD I は、前期マイナス 36.8 から約 8 ポイント悪化のマイナス 44.9 である。来期の見通しについては、前期並みに戻りマイナス 38.8 である。



2. 主な項目で見る業況

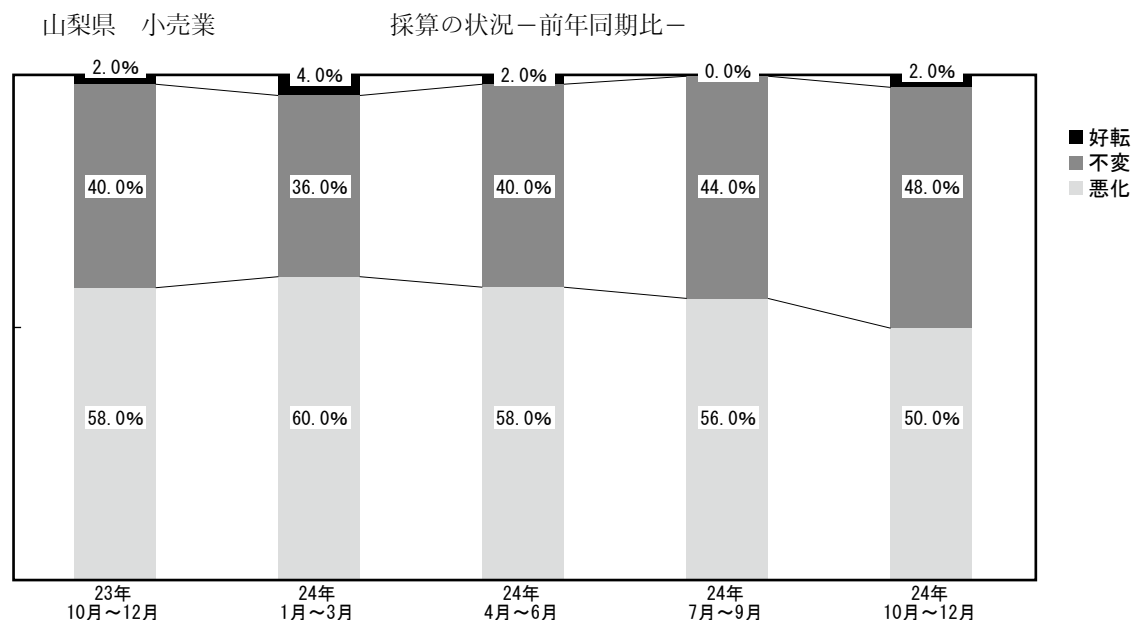
(1) 売上額

下図は、ここ 1 年間余りの「売上額」状況の推移を示したものであるが、今期の売上額D I マイナス 60.0 の中身を分析してみると次のとおりである。「増加」と答えた企業は、前期 5 社の 10.0% であったが 1 社もなくゼロになってしまった。「不変」企業は、2 期続けて 14 社の 28.0% だったが 6 社増えて 40.0% になった。「減少」企業は、前期 31 社の 62.0% から 1 社減の 60.0% であった。消費環境は、一段と厳しくなっているようだ。



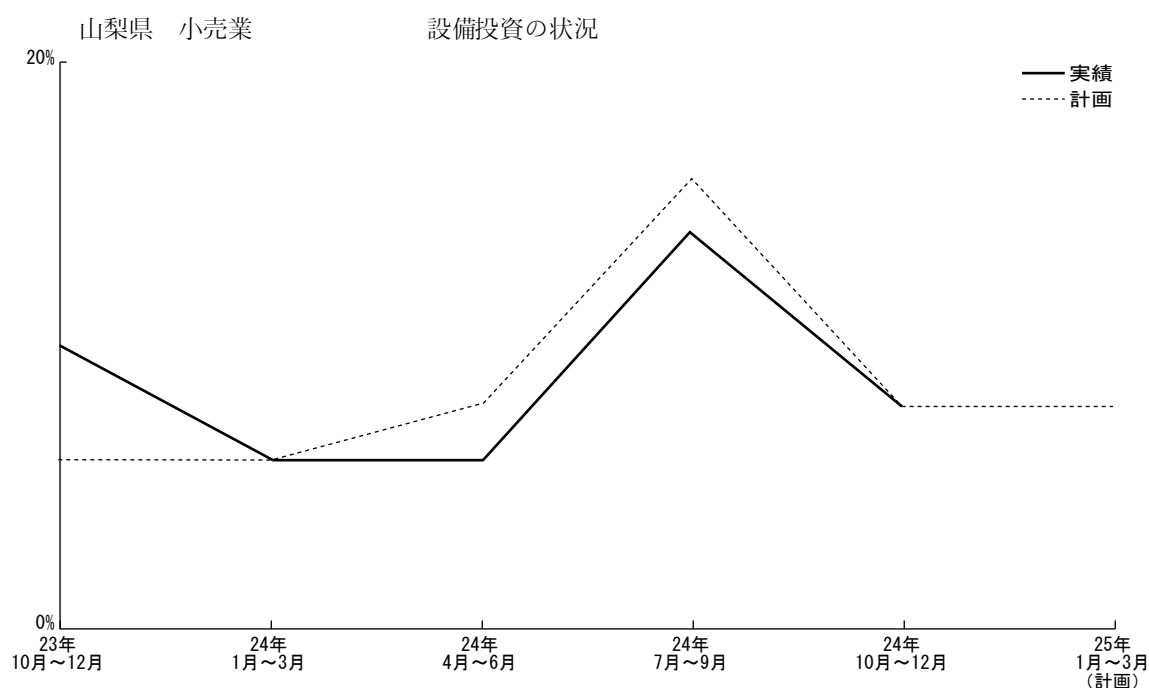
(2) 採 算

下図も、この1年間余りの「採算」状況の推移を示したものである。今期の採算D I マイナス 48.0 の内訳をみると、「好転」が前期ゼロの 0.0% から 1 社になり 2.0% に、「不変」は前期 22 社の 44.0% から 2 社増の 48.0%、「悪化」は前期 28 社の 56.0% から 3 社減りちょうど半数の 50.0% であった。前記したように、売上額 D I は悪化したのであるが商品仕入単価 D I が低下し、その影響であろうか採算 D I は改善したのである。



(3) 設備投資

小売業の今期における「設備投資」状況をみると、前期 7 社から 4 社に減った。その内容は「販売設備」「車両・運搬具」「付帯施設」「その他」が 1 件ずつであった。来期に設備投資を計画している企業は今期と同じく 4 社である。その内容は、「販売設備」が 2 件、「その他」が 3 件である。

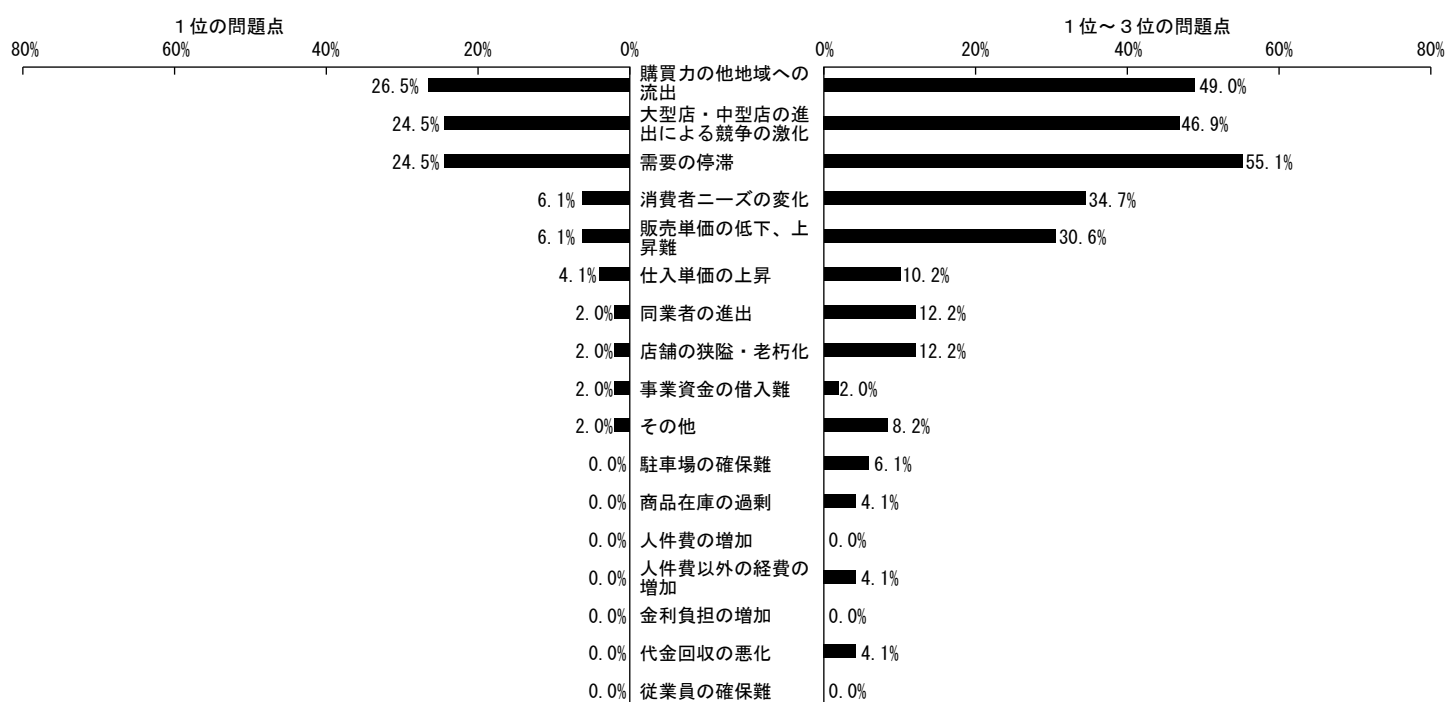


(4) 経営上の問題点

「一位」に挙げてもらったものから見ていくと、前期3番目の回答の「購買力の他地域への流出」がトップで、前期8社16.3%から13社に増え26.5%であった。続いて「大型店・中型店の進出による競争の激化」と「需要の停滞」が12社で並び24.5%であった。それぞれ前期の回答は12社と14社であった。この3回答が他を圧している。そのほかでは、「消費者ニーズの変化」と「販売単価の低下、上昇難」を3社が挙げるくらいであった。

次に「一位～三位」に挙げた答えをみると、こちらは前期に2番目の「需要の停滞」で、前期22社より5社増えて55.1%と半数を超えた。次は、「購買力の他地域への流出」で前期トップの23社から1社増えての49.0%であった。3番目は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」で前期20社から23社に増え46.9%であった。引き続き「消費者ニーズの変化」が17社34.7%、「販売単価の低下、上昇難」が15社の30.6%となっている。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
織物・衣服・身の回り品小売業	10	20.0
飲食物品小売業	13	26.0
自動車・自転車小売業	4	8.0
家具・建具・じゅう器小売業	7	14.0
その他小売業	16	32.0
合 計	50	100.0

売場面積別

売 場 面 積	企業数	構成比(%)
50 m ² 未満	24	48.0
50 m ² ～100 m ² 未満	19	38.0
100 m ² ～200 m ² 未満	5	10.0
200 m ² ～500 m ² 未満	1	2.0
500 m ² ～1000 m ² 未満	1	2.0
合 計	50	100.0

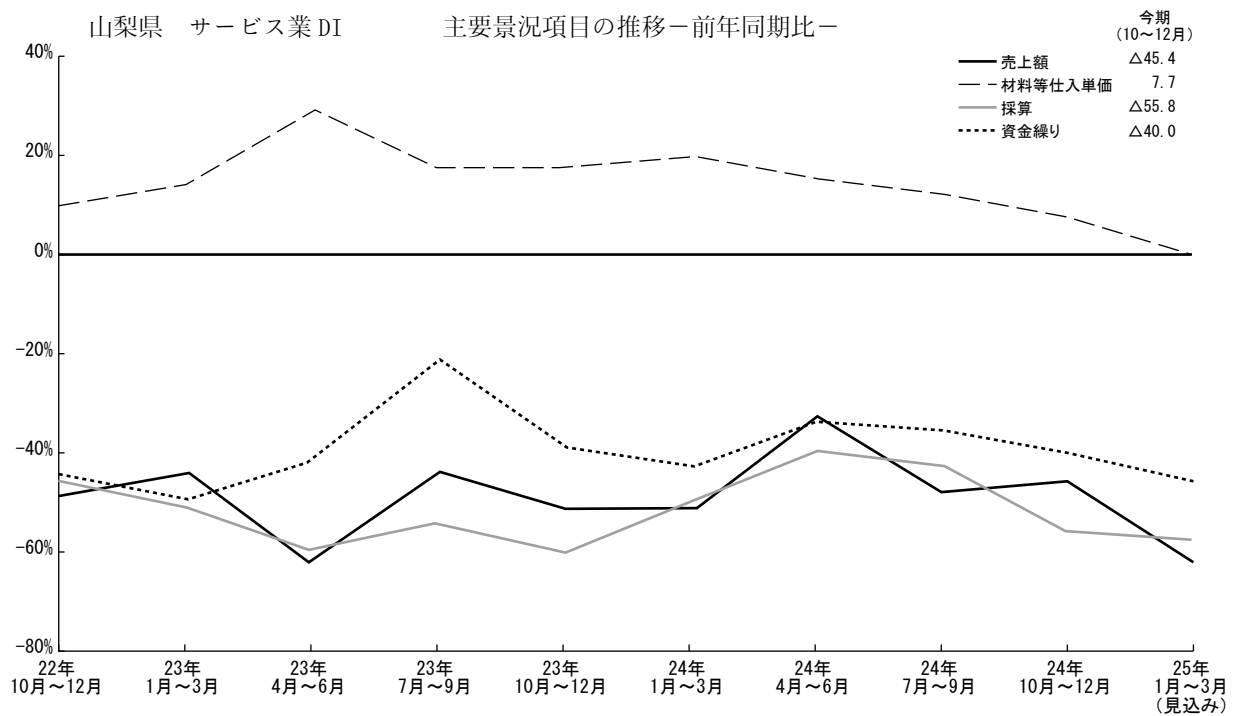
従業員規模別

従業員数	常 雇 い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	43	86.0	39	78.0
3人～5人以下	7	14.0	8	16.0
6人～10人以下	0	0.0	2	4.0
21人以上	0	0.0	1	2.0
合 計	50	100.0	50	100.0

5. サービス業の動向

1. 景況概観

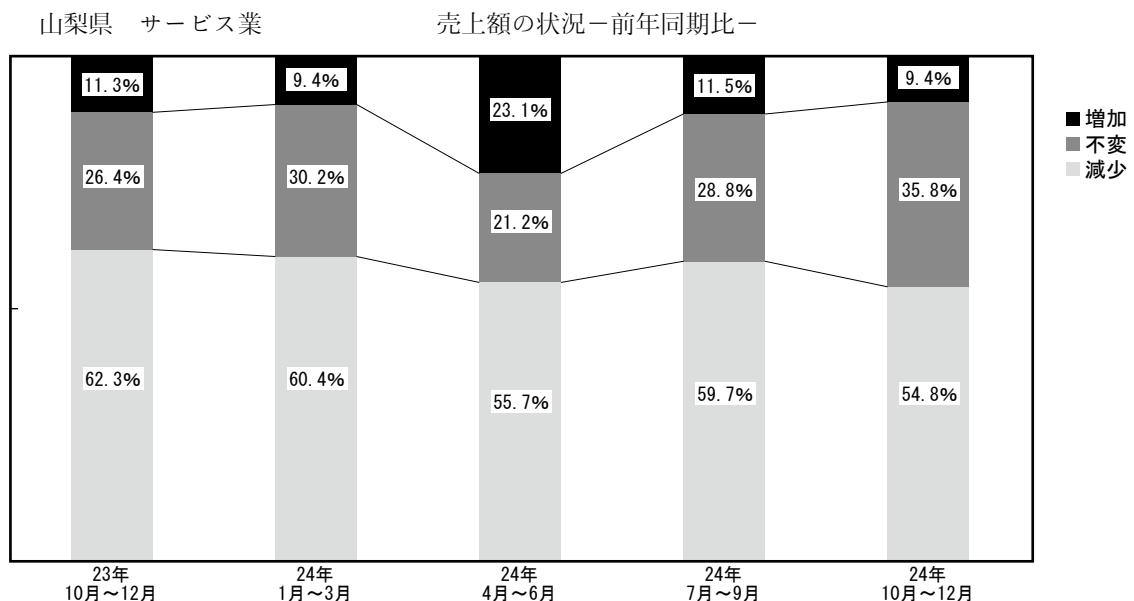
サービス業における売上額D I は、前期マイナス 48.2 から幾らかの改善を見せマイナス 45.4 であった。来期の見通しについては、16.8 ポイントの悪化のマイナス 62.2 と厳しい予測である。材料等仕入単価 D I は、前期 11.8 から 7.7 へと低下した。来期の見通しは、「上昇」と「低下」と答えた回答が 8 人ずつの 0 である。採算 D I は、前期マイナス 42.3 から 13.5 ポイント悪化のマイナス 55.8 であった。来期の見通しについては、さらに若干の悪化のマイナス 57.7 である。資金繰り D I も、前期マイナス 35.3 から約 5 ポイント悪くなりマイナス 40.0 になった。来期の見通しは、一段の悪化でマイナス 46.0 である。



2. 主な項目で見る業況

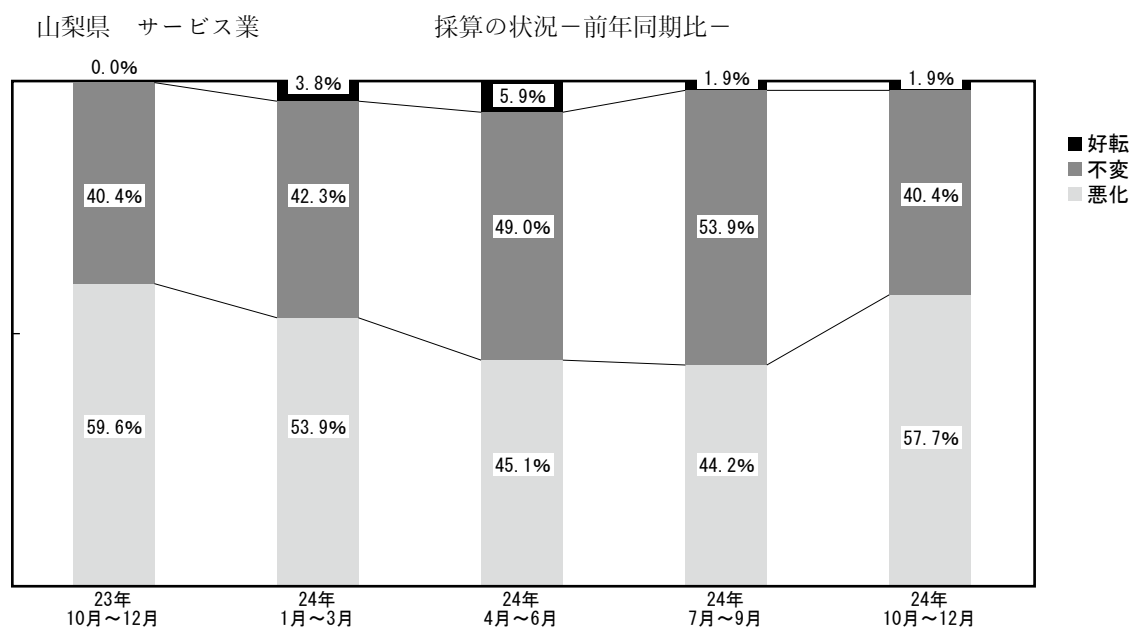
(1) 売上額

この1年間余りの「売上額」の推移状況から、今期売上額D I マイナス 45.4 の分析をすると「増加」が前期 6 社 11.5% から 1 社減の 9.4%、「不変」は前期 15 社 28.8% から 4 社増えて 35.8% に、「減少」は前期 31 社 59.7% から 2 社減の 54.8% になった。



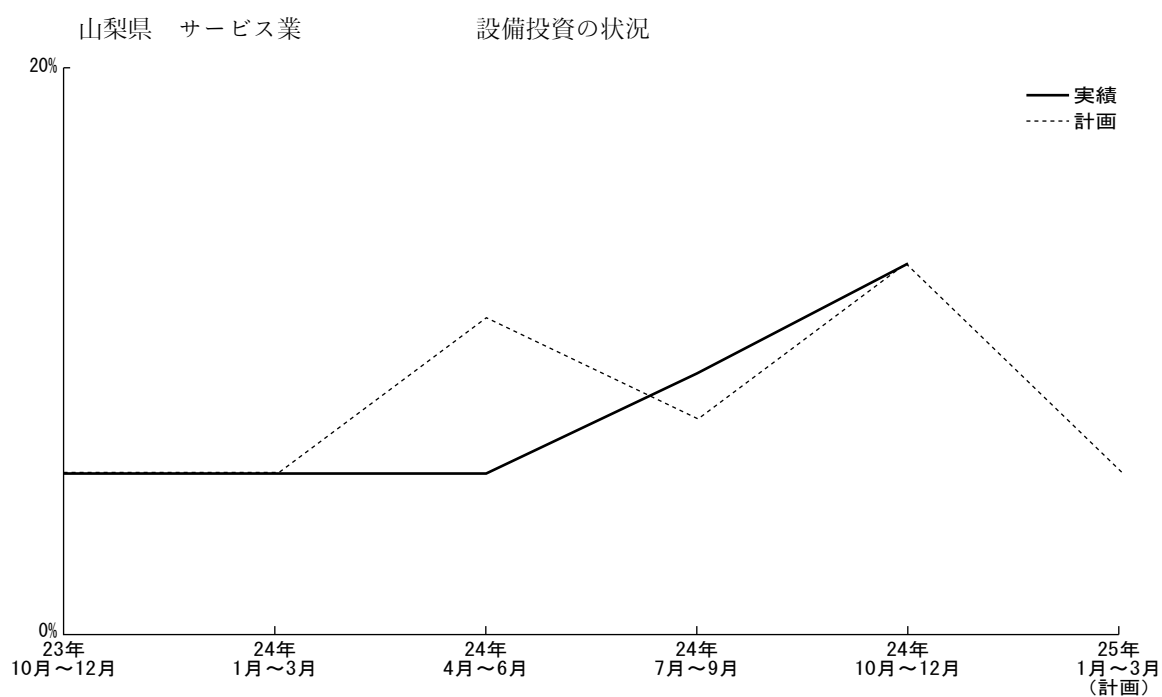
(2) 採 算

今期採算D I マイナス 55.8 の内訳は、「好転」が前期 1 社のみの 1.9% と変わらなかった。「不変」は前期 28 社と半数超えの 53.9% から 7 社も減り 40.4% に、「悪化」は前期 23 社 44.2% から 30 社に増えて 57.7% になった。



(3) 設備投資

サービス業で「設備投資」を行った企業は、前期 5 社から 7 社に増加した。その内容は「車両・運搬具」が 3 件、「建物」と「サービス」が各 2 件、そして「OA機器」と「福利厚生施設」が各 1 件であった。来期の計画については 3 社に減る。その投資の内容は、「土地」「建物」「サービス」「車両・運搬具」「OA機器」「その他」がそれぞれ 1 件である。

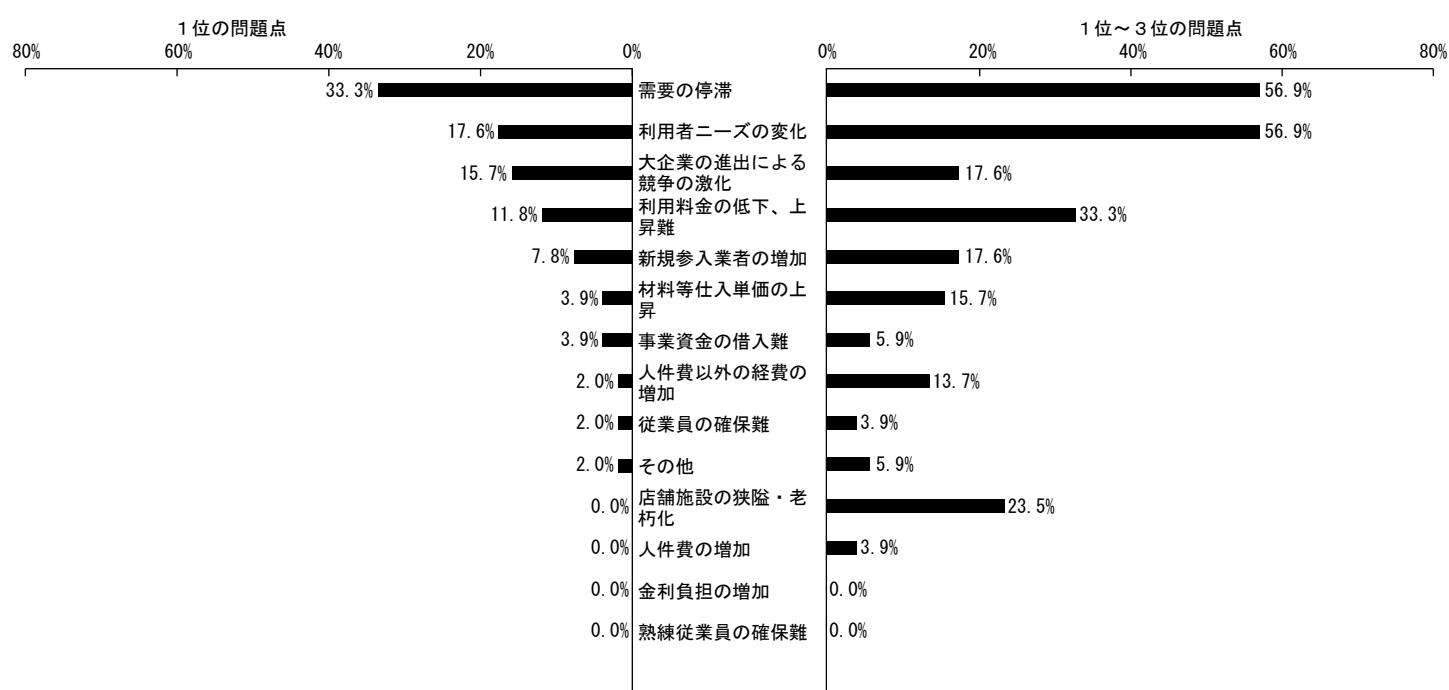


(4) 経営上の問題点

サービス業の「経営上の問題点」において、「一位」に挙げた項目の中で最も多い回答は、「需要の停滞」で前期 16 社 32.0% から 1 社増の 33.3% で相変わらずトップを走る。続いて、「利用者ニーズの変化」も変わらず 2 番目の多さだが、前期 14 社 28.0% から 9 社の 17.6% に減った。3 番目も、この順位に定着した感じの「大企業の進出による競争の激化」で、前期 8 社と同じで 15.7% であった。次も前期と同じ順位の「利用料金の低下、上昇難」で、前期 4 社から 6 社に増加して 11.8% である。さらに「新規参入業者の増加」が続き、4 社の 7.8% である。

次に、「一～三位」に挙げたものを見ると、「需要の停滞」と「利用者ニーズの変化」が最も多く各 29 社が答え 56.9% であった。それぞれ「需要の停滞」は前期より 1 社減、「利用者ニーズの変化」は 4 社増であった。次に多いのは「利用料金の低下、上昇難」で、前期 19 社の 38.0% から 2 社少なくなり 33.3% であった。続いて「店舗施設の狭隘・老朽化」を 12 社が挙げ 23.5% であった。あとは一桁の回答になるが、「大企業の進出による競争の激化」と「新規参入業者の増加」が 9 社ずつの 17.6%、「材料等仕入単価の上昇」を 8 社、「人件費以外の経費の増加」を 7 社が問題としている。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
一般飲食店	13	24.5
宿泊業	8	15.1
自動車整備業	7	13.2
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	6	11.3
合 計	53	100.0

従業員規模別

従業員数 \ 雇用形態	常 雇 い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2 人以下	42	79.2	37	69.8
3 人～5 人以下	5	9.4	9	17.0
6 人～10 人以下	5	9.4	5	9.4
11 人～20 人以下	1	1.9	1	1.9
21 人以上	0	0.0	1	1.9
合 計	53	100.0	53	100.0